

令和5年2月15日
危機管理室危機管理課

「避難に関するワーキンググループ」中間報告

(経緯)

本市では、これまで地域防災力の向上を図るため、「みんな de Bousai まちづくり推進事業」、「避難行動要支援者支援事業」、「地域と連携した避難所運営事業」など、地域の協力を得ながら様々な取組を行ってきた。近年、大雨等による災害が頻発化、激甚化し、毎年のように各地で甚大な被害が生じている中、より一層、防災対策を強化し、市民の安全を確保していくためには、行政が取り組む公助に加え、避難所運営や避難行動等において、市民の自律的な取組をさらに推進していく必要がある。

このため、令和4年7月、北九州市防災会議に「避難に関するワーキンググループ」を設置し、市民の自律的な行動につながる方策などについて議論を行ってきた。

その内容の骨子について、中間報告としてまとめるもの。

(開催経過)

第1回：令和4年 8月24日（水）13：30～15：30

第2回：令和4年10月31日（月）14：00～16：00

第3回：令和5年 2月 3日（金）14：00～16：00

(中間報告骨子)

今後の取組として、

- ①防災でつながる、地域での新たな担い手の発掘や啓発の取組
- ②SNS等の活用も含めた効果的、効率的な情報伝達や先進的な取組の地域間での共有の仕組みづくり
- ③災害時の拠点となる予定避難所の充実

などを推進していく。

※詳細は別紙のとおり

(今後の動き)

令和5年度中にワーキンググループでの検討結果を取りまとめた後、北九州市防災会議に提案し、地域防災計画等への反映を検討するもの。

【参考】

避難に関するワーキンググループ構成員

村江 史年	北九州市立大学 准教授
古賀 由布子	Say!輪(セイリング) 代表
茅切 敦美	(福)北九州市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター 活動推進課長
湯元 照子	(公)福岡県看護協会 北九州地区理事
松井 清記	北九州市市民防災会総連合会 会長
貞方 萌花	北九州市立大学地域共生教育センター
吉永 一郎	北九州市戸畑区役所 総務企画課長
右田 圭子	北九州市危機管理室 危機管理室長

「みんなde Bousai」加速化に向けた取組について

今後、さらなる地域防災力の向上を目指すには、防災に「気づき」、「学ぶ」ことをさらに浸透させ、「みんなde Bousai」の取組を、より加速させていく必要がある。企業や学生等も含めた、より多くの人材に地域の防災に携わってもらうため、先進事例の横展開等を図りながら、以下のような取組を充実させていく。

※「防災」ではなく「Bousai」という表記には、世界的に通用する「Tsunami（津波）」や「Sabo（砂防）」のように、日本の防災の取組が世界標準となるようにとの東京大学特任教授片田敏孝氏（元北九州市防災アドバイザー）の思いが込められている。

①防災でつながる、地域での新たな担い手の発掘や啓発の取組

⇒地域でのワークショップに企業・学生等の参画促進

地域行事に防災の視点を加えた防災運動会、防災まち歩き等
地域防災活動支援におけるNPO等との協働や活動の場の拡大

②SNS等の活用も含めた効果的、効率的な情報伝達や先進的な取組の地域間での共有の仕組みづくり

⇒電子回覧板、LINEやメルマガ、防災アプリ等の活用

⇒市ホームページ、SNS等による情報発信や地域巡回による展示等

③災害時の拠点となる予定避難所の充実

⇒避難所myルール、備蓄品の拡充、民間事業所等との連携等
避難所運営委員会の平時からの組織化

市内の自治会等における防災に関する地域主体の取組事例

〔啓発に関する取組事例〕

- 地域独自の防災ハンドブックを作成している。
 - ・ 雨の降り方や災害の前兆現象等の説明
 - ・ 危険箇所や避難場所の確認等日頃からの備え
 - ・ 食料、常備薬の持参やペットの同行避難等避難所の利用ルール
- 地域住民や消防団、大学等との協働による「防災まち歩き」により地域の危険箇所を調査し、地域独自のハザードマップを作成している。
- ゴールデンウィークや年末年始等に家族が帰省した際に、本市防災アプリ（ハザードン）の登録等を勧めている。

〔避難行動支援に関する取組事例〕

- LINEやメルマガ等を活用して連絡網を作成し、情報共有を行っている。
- 災害時の川の氾濫を防ぐため、側溝や河川の清掃イベントを行っている。

〔訓練・研修に関する取組事例〕

- 地域の社会福祉施設等と日頃から会議や訓練、研修等を行い、顔の見える関係を築いている。
- 校区ぐるみで避難訓練やDIG、HUG等の研修を行っている。
- 校区の運動会に防災の要素を取り入れた「防災運動会」を行っている。
- NPO法人、消防団、学校法人、行政機関等が連携し、避難所体験や防災グッズの作成、まち歩きスタンプラリー等を通じて防災知識と技術を身につける体験型イベントを行っている。

〔備蓄に関する取組事例〕

- 校区内の社会福祉施設と避難に関する協定を締結し、施設の非常食や水、おむつ等の備蓄品を利用できる体制を作っている。